

ホテルのような居心地の良さと ホスピタリティを徹底追求した病院

医療法人社団 聖秀会 聖光ヶ丘病院

2013(平成25)年6月、柏市光ヶ丘団地にオープンした聖光ヶ丘病院。中世の古城をイメージした優雅で落ち着いたデザインやホスピタリティを意識した人員配置、環境保全や省エネに配慮した各種設備など、病院の革新にチャレンジした最新の医療機関だ。医師やスタッフの丁寧な対応は周辺地域にも好評で、外来数はすでに当初予想の2倍を超えている。

病院らしくない デザイン

樹木が美しく整備された閑静な団地内に、5階建ての瀟洒な建物が立っている。石材仕立ての外壁と、アンティークなエントランスを演出した外観は、これまでの病院のイメージとはか



高級ホテルのロビーを思わせる待合室

なり異なる。明るく開放的な待合室には暖炉が設けられ、ガラス越しに見える中庭は水庭(ウォーターガーデン)になっていて、滝のように水が流れ、季節の花が飾られている。

「従来の固くて冷たい感じのする病院のイメージから離れ、できるだけ病院らしくないデザインやレイアウトを目指しました。また10年後20年後も飽きがないようにヨーロッパの古城をイメージしてつくっています」

聖光ヶ丘病院は2013(平成25)年、手狭になった旧病院から新設移転した。診療科として内科、眼科、整形外科、皮膚科、精神科・心療内科、内視鏡セ



関根秀夫病院長・理事長

「ガス発電であれば、震災で電力が止まることもありませんが、都市ガスを利用して発電、ガスコージェネレーションのしくみをつくり、浴場や洗面所の湯沸かしなどは排熱を利用しています」

電力の安定供給とエネルギーのリサイクルを目指したことが、CO₂削減につながったのである。さらに廊下や病室、待合室や診察室など施設の主要部の照明にLEDを採用、ここでもCO₂削減に大きく寄与している。

環境にやさしい 省エネ設備

華やかな外観や内装によるホスピタリティを全面に打ち出す一方で、環境に配慮した設備設計も大きな特徴だ。東日本大震災による計画停電は医療機関にも少なからぬ衝撃を与えた。病院にとっては、どんな場合であっても電力がストップすることは回避しなければならない。

「ガス発電であれば、震災で電力が止まることもありませんが、都市ガスを利用して発電、ガスコージェネレーションのしくみをつくり、浴場や洗面所の湯沸かしなどは排熱を利用しています」

電力の安定供給とエネルギーのリサイクルを目指したことが、CO₂削減につながったのである。さらに廊下や病室、待合室や診察室など施設の主要部の照明にLEDを採用、ここでもCO₂削減に大きく寄与している。

ガスコージェネレーションやLEDの導入は光熱費の大幅なコスト削減にもつながった。水道水は以前より利用している地下水を継続している。旧病院に比べて延べ床面積は1.5倍に拡大したにもかかわらず、水道光熱費はほぼ同じだ。新設移転による省エネ設備の導入で、コスト削減とCO₂削減を一挙に実現したのである。

ンター、健診センターを備え、検査機材は最新機器を導入した。

同病院の理念は「患者様に優しく、親身に丁寧な医療」と「おもてなし」である。新設移転するにあたっては、この理念を具現化すべく建物の外観から細部に至るまで、来院者や患者の居心地の良さを徹底追求した。ホテルで重要視されるホスピタリティは病院にこそ必要、というのが同病院の考えだ。落ち着いた色のあるラグジュアリーなイメージにこだわったのは、そのためである。

特に病棟の個室は、高級ホテルの1室を思わせる上質感ある内装で、寝室や浴室、洗面所が整えられ、タオルやガウンなどすべてのアメニティが用意されている。院内移動の際にも不便がないように廊下の横幅は広く、天井高で開放感を演出。1階外来ロビー、5階のレストラにはシャンデリア・ステンドグラス・百号の絵画があり、レ

職員が働きやすい 職場に

同病院では移転前の2011(平成23)年7月から移転後の13年6月末までの2年間、職員の子育て支援のための行動計画を立てた。主な内容は、制度利用の推進や育児休業を取得しやすい環境整備、育児休業からの復帰支援、子どもが増えることによる休暇日数の拡大などである。以前から取り組んできたワークライフバランスをさらに浸透させるためだ。

「現在、ほとんどの職員は有給休暇をしっかりと取るようになりましたし、日頃から職員同士のフォローが定着しているので、保育園の迎えなど仕事を早めに

ストランからはスカイツリーや富士山も眺望できる。

コンシェルジュを 配置

ハード面での追求に加え、人の配置にも配慮している。ロビーを入ってすぐの待合スペースにはスタッフが常駐しているのだが、このスタッフのことを、同病院では「コンシェルジュ」と呼ぶ。

洗練された制服を身に着けた女性のコンシェルジュは、通常の案内業務をこなすだけではなく、患者から症状や要訴を聞き、担当の医師に伝えるなど、一歩踏み込んだ対応を行う。来院者から声がかかるのを待っているのではなく、積極的に動いて声をかける。ホスピタリティを実感してもらうために、コンシェルジュの存在は非常に大きい。

近隣から通院する患者にも配慮した。無料巡回バスを設け、通院の負担をできるだけ軽減しようという試みである。JR常磐線・南柏駅から南部にかけて、東武野田線・新柏駅の西部にか

切り上げて帰る職員もよく見かけます」

働きやすさに対する配慮は採用面にも及び、採用時は住まいの近い人を優先する。職住近接のほうが仕事と生活を両立しやすいというのが大きな理由だ。実際に職員の満足度は高く、定着率も高いという。だからこそ、来院者へのおもてなしにも気持ちが入る。

ハード面とソフト面の両方から生み出されるホスピタリティを全面に打ち出した対応は、周辺の光ヶ丘団地の住民にも好評だ。当初想定していた外来患者数は1年足らずで倍にまで伸びた。今後は健診センターや内視鏡センターに代表される同病院のフルスペックを最大限に活かした、ワンストップ医療サービスの提供に磨きをかける。

法人概要

設立 2003(平成15)年
代表者 関根秀夫(病院長・理事長)
所在地 柏市光ヶ丘団地2-13
病床数 219床
職員数 260人
事業内容 一般病院
(千葉銀行取引店 松戸支店)



ヨーロッパの古城をイメージしてつくられた、落ち着いたデザイン